

10までの数に慣れよう②

トランプあそび



福岡県教育センター 2020

はじめに

低学年の算数で大切なことは、数や図形に慣れることです。

低学年の子供たちの中に、しばしば

「算数が分からない...」

という子がいます。

そんな子には、

「分からないのではなく、慣れてないだけですよ。」

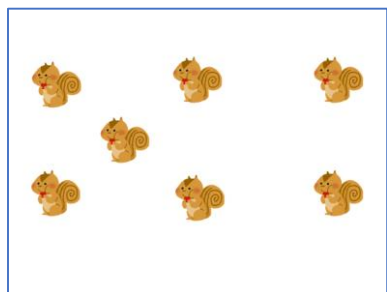
と言います。

例えば、自転車に乗ることで考えると、

「乗れない」ではなく「乗ることに慣れていない」となります。

数に慣れれば、たし算やひき算はとても簡単になります。

数に慣れるというのは、例えば、



この絵を見て、ぱっと「7」と答えることです。  
並んでいる絵を見て、ぱっと数が答えられるのは、  
「こっちに5，こっちに2あるから7」  
「7は、2と5だから」  
というように、数を合成したり分解したりできるから  
です。

10までの数の合成・分解がぱっとできることは、  
1年生の算数で一番大切なことです。

このスライドでは、遊びながら数の合成・分解ができるようになるトランプ遊びを紹介します。

1 めくって「10」

2 もらって「10」

3 その他

ポイントは、一つ！  
とにかく、親も楽しんでやることです。

お子さんと、本気で勝負して下さい。



# 1 めくって「10」

<ルール>

- ①裏返したカードをめくって、合計が10になったら、カードをもらえる遊びです。
- ②裏返したカードをばらばらに広げます。順番を決めて、まず最初の人からカードの数の合計が10になるまで1枚ずつカードをめくりします。3, 7とめくったら、ちょうど10になり、もう一回できます。5, 8というように10をこえたら、アウトで元に戻して次の人...となります。

(最後に、カードが余ることもあります。)

※「10」は、「0」として計算します。(ラッキー!)

※Kは3, Qは2, Jは1として数えます。

難しいときは、絵札は外して下さい。

- ②残りのカードがなくなるか、または、10ができなくなったとき、手持ちのカードが多い人が勝ちです。

# 1めくって「10」

<例> 例えば、最初のAさんが、3、5とめくったら、まだ10にならないので、あと1枚めくらなければなりません。ここで、2が出たら10になり、Aさんは、3枚ゲットすることができます。

3、5の後に1がでたら（まだ合計9）、さらに1枚めくり、運良く1（または、J）が出たら5枚になります。もし、その他の数であれば、10をこえるので、もとの場所に裏返します。4と6のように、2まいで10になることもあれば、10をめくったら、それ1枚で10でもう一回...ということもあります。



3枚ゲットして、  
もう1回！



10をこえてい  
るので、裏返し  
て次の人へ。

# 1めくって「10」

<応用編> 10までに慣れてきたら、絵札を11, 12, 13として数え、「合計14になったら…」など、ルールを工夫することも考えられます。

「最初は、もっと簡単に、合計7に」「合計20で、ゲームができるかな?」「めくるのは2枚までにしよう!」というようにいろいろ工夫して楽しんで下さい。



はじめは、「2枚で『5』ができたら」でやってみよう。



20ぴったり...だったら、どんな勝負になるかな?

# 2 もらって「10」

## <ルール>

※トランプ遊びの『ばばぬき』のルールを変えた遊びです。

① 1～9までのカードとジョーカーを混ぜて一人一人にカードを配ります。通常のルールは、「同じ数字が2枚そろったら捨てる」ですが、この遊びは、「**2枚の数の合計が10になったら捨てる。**」というルールになります。

②配られたカードを見て、2枚で10になるペアがあれば、みんなに見せながら捨てます。

※全てのカードを使って、「10と絵札は捨てていい」としてもいいです。

③他は、普通のルールで、早くなくなっただ人が勝ちとなります。



## 2 もらって「10」

<応用編>

10までに慣れてきたら、絵札を入れて、「合計14になったら…」など、ルールを工夫することも考えられます。

また、慣れていないときは合計を小さくしたり、「今日は、7の合成・分解の勉強をしたから、7を作るばば抜きをしよう!」「今日は、3枚で10」でもいいようにしてみよう!」というように、今、やってる学習でルールを考えることもいいですね。



## 3 その他 ～いろいろやってみよう！～

### <トランプ遊びのよさ>

この2つの遊びに限らず、トランプ遊びには、数の感覚を高める上でいろいろなよさがあります。

- ・「7ならべ」で数を順序よく並べることは、数のならびの理解につながります。（小学生になる前に特にお勧め）
- ・枚数を競う遊びでは、自分の手持ちのカードを数えることや、相手と比べることで、数の大小の理解が深まります。
- ・カードを配る際の、「同じ枚数ずつ配る」「同じ枚数に分ける」は、かけ算やわり算の素地になります。

他にも、「もっとおもしろくなるように、自分たちでルールを工夫する」「いくつかのルール（きまり）を理解してあそぶ」など、たくさんよさがあります。

## 3 その他 ～いろいろやってみよう！～

### <家族と遊ぶよさ>

そして、一人で画面に向かって黙々とゲームをするのと違って、

「わあ、すごい！もうそろったね。」

「ぱっと、10がわかるようになったね。」

「次は、7が出ないかな！」

「次は、こんなルールでやってみようよ！」

というように、**みんなでわいわい遊ぶこと**がなによりいいことです。

トランプ遊びに限らず、日常生活の中で「数」に関わる場面はたくさんあります。「これ、いくつある？」「どっちが多い？」など、何気ない声かけが数の感覚を高めることにつながります。